玄海原子力発電所第4号機の施設定期検査の概要

検査項目	検査内容の概要	検査実施日	検査結果
クラス 1 機器供用期間中 検査	原子炉本体等(クラス1機器)につい て、有害な欠陥、漏えい等がないことを 非破壊検査及び漏えい検査により確認	令和元年 10 月 17 日 令和元年 10 月 30 日	良
燃料集合体外観検査	燃料集合体に有害な損傷、変形等の異常 がないことを確認	令和元年 9 月 26 日 令和元年 9 月 27 日	良
燃料集合体炉内配置検査	燃料集合体と内挿物が正しく組み合わせ られ、炉内の所定の位置に装荷されてい ることを確認	令和元年 10 月 21 日	良
原子炉停止余裕検査	最大の反応度効果をもつ制御棒クラスタ 1体が挿入できない場合においても原子 炉の停止余裕が確保されていることを確 認	令和元年 10 月 31 日	良
燃料取扱装置機能検査	燃料移送装置、燃料取替クレーン及び使用済燃料ピットクレーンの動力源を喪失させても模擬燃料集合体が保持できることを確認	令和元年9月26日	良
使用済燃料貯蔵槽冷却浄 化系機能検査	使用済燃料貯蔵槽冷却浄化系を運転し、 運転状態に異常がないこと及び所定の機 能・性能が維持されていることを確認	令和元年 10 月 16 日	良
クラス2機器供用期間中 検査	原子炉格納施設等(クラス2機器)につ いて、有害な欠陥及び漏えいがないこと を非破壊検査及び漏えい検査により確認	令和元年 10 月 17 日 令和元年 10 月 30 日	良
重大事故等クラス 2 機器 供用期間中検査	重大事故等対処施設について、有害な欠 陥及び漏えいがないことを非破壊検査及 び漏えい検査により確認	令和元年 10 月 17 日 令和元年 10 月 30 日	良
蒸気発生器伝熱管体積検 査	蒸気発生器の伝熱管に有害な欠陥及び減 肉がないことを非破壊検査により確認	令和元年 10 月 23 日	良
加圧器安全弁機能検査	加圧器安全弁が所定の圧力で作動するこ とを確認	令和元年 10 月 1 日	良
加圧器安全弁漏えい検査	加圧器安全弁の弁座面からの漏えい量が 規定値以下であることを確認	令和元年 10 月 1 日	良
加圧器安全弁分解検査	加圧器安全弁の主要な部品に機能・性能 に影響を及ぼすおそれのある亀裂、変 形、摩耗等がないことを目視及び非破壊 検査により確認	令和元年 9 月 26 日	良
加圧器逃がし弁機能検査	加圧器逃がし弁の開閉条件を模擬した信号により弁が設定どおりに開閉すること及び中央制御室の表示灯及び警報が動作することを確認	令和元年 10 月 15 日	良
加圧器逃がし弁漏えい検査	加圧器逃がし弁が全閉した状態で弁出口 側の温度を監視することにより弁に漏え いがないことを確認	令和元年 10 月 29 日	良
加圧器逃がし弁分解検査	加圧器逃がし弁の主要な部品に機能・性 能に影響を及ぼすおそれのある亀裂、変 形、摩耗等がないことを目視及び非破壊 検査により確認	令和元年9月26日	良

検査項目	検査内容の概要	検査実施日	検査結果
加圧器逃がし弁元弁機能 検査	加圧器逃がし弁の元弁が操作スイッチに	令和元年 10 月 15 日	良
	より全開及び全閉することを確認	7和九年10月10日	K
主蒸気安全弁機能検査	主蒸気安全弁が所定の圧力で作動するこ	 令和元年 10 月 28 日	良
	とを確認	1371176	
 主蒸気安全弁漏えい検査	主蒸気安全弁の弁座面からの漏えい量が	令和元年 10 月 8 日	良
	規定値以下であることを確認	12 1420 1 10 22 0 14	
	主蒸気逃がし弁の開閉条件を模擬した信		
主蒸気逃がし弁機能検査	号及び制御器の操作により弁が全開及び	令和元年 10 月 25 日	良
	全閉すること並びに中央制御室の表示灯		
 主蒸気逃がし弁漏えい検	及び警報が作動することを確認 主蒸気逃がし弁の弁座面からの漏えい量		
土然就処かし井/網んい快 査	が規定値以下であることを確認	令和元年 10 月 8 日	良
<u> </u>	主蒸気隔離弁の閉信号により弁が所定の		
 主蒸気隔離弁機能検査	時間内に全閉すること並びに中央制御室	 令和元年 10 月 28 日	良
上無人們們 人 人 人	の表示灯及び警報が作動することを確認	13.41170-1-10712011	
	非常用炉心冷却系を運転し、高圧注入系		
II	及び低圧注入系のポンプの運転状態に異		
非常用炉心冷却系機能検	常がないこと、操作スイッチにより各系	令和元年 10 月 10 日	良
査 	の弁が正常に開閉すること、蓄圧注入系		
	のほう酸水が注入されることを確認		
	非常用炉心冷却系ポンプの主要な部品に		
非常用炉心冷却系ポンプ	機能・性能に影響を及ぼすおそれのある	 令和元年 9 月 25 日	良
分解検査	亀裂、変形、摩耗等がないことを目視及) NADO TO 1	K
	び非破壊検査により確認		
	非常用炉心冷却系主要弁の主要な部品に		
非常用炉心冷却系主要弁	機能・性能に影響を及ぼすおそれのある	│ 令和元年 9 月 26 日	良
分解検査 	亀裂、変形、摩耗等がないことを目視及 なずかなける。		
	び非破壊検査により確認 その他原子炉注水系ポンプの主要な部品		
ᇫᄼᄱᄧᅩᅩᅝᆉᆚᅎᅷᆉ	ての他原子炉注水系ホンフの主要な部品 に機能・性能に影響を及ぼすおそれのあ		
│その他原子炉注水系ポン │プ分解検査	C機能・性能に影音を及ばすめてれのの る亀裂、変形、摩耗等がないことを目視	令和元年9月25日	良
フガ州快量	及び非破壊検査により確認		
	その他原子炉注水系主要弁の主要な部品		
 その他原子炉注水系主要	に機能・性能に影響を及ぼすおそれのあ		
分配派	る亀裂、変形、摩耗等がないことを目視	令和元年9月27日	良
	及び非破壊検査により確認		
	操作スイッチ等によりその他原子炉注水		
	系の弁が全開及び全閉すること、高圧注		
その他原子炉注水系機能	入系、低圧注入系、格納容器スプレイ系	令和元年9月25日	良
検査	及び充てん系のポンプの運転状態に異常	令和元年 10 月 23 日	R
	がないこと、蓄圧注入系のほう酸水が注		
	入されることを確認		
 原子炉補機冷却系機能検	原子炉への冷却水注入条件を模擬した信	A 4	_
查	号及び操作スイッチにより補機冷却系の	令和元年 10 月 24 日	良
	弁が全開又は全閉することを確認		
	補助給水系を運転し、電動補助給水ポン プ及びタービン動補助給水ポンプの運転		
補助給水系機能検査	フ及びダービン動補助結ポポンプの運転 状態に異常がないこと、補助給水系の起		
		 令和元年 10 月 25 日	良
	新来性を模擬した信号により電動補助品 水ポンプしゃ断器が自動投入すること及		区
	びタービン動補助給水ポンプ蒸気入口弁		
	が全開することを確認		
		l .	

検査項目	検査内容の概要	検査実施日	検査結果
補助給水系ポンプ分解検査	補助給水系ポンプの主要な部品に機能・		
	性能に影響を及ぼすおそれのある亀裂、	 令和元年 10 月 3 日	良
	変形、摩耗等がないことを目視及び非破		K
	壊検査により確認		
最終ヒートシンク熱輸送	手動操作により主蒸気逃がし弁が正常に	 令和元年 10 月 16 日	良
設備作動検査	開閉することを確認	17 1875 1 117 117	
	制御用空気の圧力低下を模擬し、信号に		
制御用空気圧縮系機能検	より所定の圧力で制御用空気圧縮機予備 機が自動起動すること、バックアップ弁	→和一左 10 □ 04 □	–
査	│ 懱か自動起動すること、ハックアッフ开 │ が自動開すること、隔離弁が自動閉する	令和元年 10 月 24 日	良
	か自動用すること、隔離开が自動用する こと及び警報が発信することを確認		
	ここ及び言報が光信することを確認 原子炉トリップ信号の発信から制御棒ク		
 制御棒駆動系機能検査	ラスタ挿入に至るまでの時間が所定の時	令和元年 10 月 21 日	良
	間内であることを確認	令和元年 10 月 29 日	K
	ほう酸ポンプを運転し、運転状態に異常		_
ほう酸ポンプ機能検査	がないことを確認	令和元年 10 月 9 日	良
	原子炉保護系及び安全防護系の作動条件		
安全保護系機能検査	を模擬した信号によりロジック回路が作	令和元年 10 月 24 日	良
	動することを確認		
	安全保護系の設定器の動作値が設定値ど	人 和二左 0 日 10 日	
安全保護系設定値確認検	おりであること、伝送器が基準値に対し	令和元年9月18日	–
査	て正しい値を出力すること、指示計が基	令和元年 10 月 16 日 令和元年 10 月 17 日	良
	準値に対して正しい値を示すことを確認	予加ルギ 10 月 17 日	
	重大事故時安全停止回路の設定器の動作		
	値が設定値どおりであること、タイマー		
重大事故時安全停止回路	の動作時間が所定の時間内であること、	 令和元年 10 月 17 日	良
機能検査	作動条件を模擬した信号によりロジック	13 1470 1 10 71 17 14	
	回路が作動すること、動作阻止信号によ		
	りロジック回路が作動しないことを確認		
	プラントパラメータを監視する計器が基準に対してエールはカニオー	令和元年9月19日	
プラント状態監視設備機 能検査	準値に対して正しい値を示すこと、格納 容器雰囲気ガス試料採取設備を運転し、	令和元年 10 月 9 日	良
配役且 	谷ि路分四丸ガへ試料採取設備を運転し、 運転状態に異常がないことを確認	令和元年 10 月 24 日	
	原子炉格納容器内の放射線レベルを監視		
│ │エリアモニタ機能検査	する計器が基準値に対して正しい値を示	 令和元年 10 月 9 日	良
ニックとニット成形状質	すことを確認	10710	K
	中央制御室の放射線レベルの異常信号に		
	より中央制御室非常用循環系のファンが		
中央制御室非常用循環系	起動するとともにファン、ダンパ等が切	令和元年 10 月 10 日	良
機能検査	替わること、中央制御室非常用循環ファ		
	ンの運転状態に異常がないことを確認		
中央制御室非常用循環系	中央制御室非常用循環系フィルターによ	令和元年 10 月 23 日	
│ 中央制御至非吊用頒垛糸 │ フィルター性能検査	るよう素の除去効率、総合除去効率等が	令和元年 10 月 25 日 令和元年 10 月 25 日	良
- 1 / / LIDIX且	所定の値を満足することを確認	13 1H 70 T 10 /7 Z0 H	
原子炉格納容器局部漏え い率検査	原子炉格納容器隔離弁、貫通部及び開口		
	部に設けられた扉を所定の圧力に加圧	令和元年9月25日	良
	し、漏えい率が許容値以下であることを	令和元年 10 月 24 日	
	である。		
原子炉格納容器隔離弁機	原子炉格納容器隔離条件及び原子炉格納	│ △ 和二左 10 □ 0 □	
能検査	容器スプレイ条件を模擬した信号により 隔離弁が正常に全閉することを確認	令和元年 10 月 9 日	良

検査項目	検査内容の概要	検査実施日	検査結果
原子炉格納容器隔離弁分 解検査	原子炉格納容器隔離弁の主要な部品に機能・性能に影響を及ぼすおそれのある亀裂、変形、摩耗等がないことを目視及び 非破壊検査により確認	令和元年 9 月 26 日	良
原子炉格納容器安全系機 能検査	原子炉格納容器スプレイ系のポンプを運転し、運転状態に異常がないこと並びに原子炉格納容器スプレイ条件を模擬した信号を模擬した信号及び操作スイッチにより所定の弁が全閉又は全開することを確認	令和元年 10 月 10 日	良
原子炉格納容器安全系ポ ンプ分解検査	原子炉格納容器安全系のポンプの主要な 部品に機能・性能に影響を及ぼすおそれ のある亀裂、変形、摩耗等がないことを 目視及び非破壊検査により確認	令和元年 10 月 1 日	良
可燃性ガス濃度制御系主 要弁分解検査	可燃性ガス濃度制御系主要弁の主要な部 品に機能・性能に影響を及ぼすおそれの ある亀裂、変形、摩耗等がないことを目 視及び非破壊検査により確認	令和元年 9 月 27 日	良
原子炉格納容器水素再結 合装置機能検査	電気式水素燃焼装置の運転状態に異常が ないこと並びに容量が所定の値を満足す ることを確認	令和元年 9 月 26 日	良
アニュラス循環排気系機能検査	アニュラス空気浄化ファンを起動し、循環排気系の弁が全開又は全閉すること、所定時間内にアニュラス内が負圧になること、アニュラス内の負圧が維持されること、アニュラス空気浄化ファンの運転状態に異常がないことを確認	令和元年 10 月 11 日	良
アニュラス循環排気系フィルター性能検査	アニュラス循環排気系フィルターによる よう素の除去効率、総合除去効率等が所 定の値を満足することを確認	令和元年 10 月 10 日	良
非常用ディーゼル発電機 分解検査	非常用ディーゼル発電機の主要な部品に機能・性能に影響を及ぼすおそれのある 亀裂、変形、摩耗等がないことを目視及 び非破壊検査により確認	令和元年 10 月 1 日	良
非常用予備発電装置機能 検査(ディーゼル発電機定 格容量検査)	非常用ディーゼル発電機を起動し、定格 容量を出力できることを確認	令和元年 10 月 2 日 令和元年 10 月 11 日	良
非常用予備発電装置機能 検査(ディーゼル発電機の 作動検査)	非常用ディーゼル発電機の自動起動条件を模擬した信号等により所定の時間内に電圧が確立し、非常用ディーゼル発電機に電源を求める機器が所定の時間内に負荷され、運転状態に異常がないことを確認	令和元年 10 月 18 日 令和元年 10 月 29 日	良
その他非常用発電装置の 機能検査	大容量空冷式発電機を起動し、定格容量 を出力できること、運転状態に異常がな いことを確認	令和元年9月26日	良
直流電源系機能検査	蓄電池の浮動充電運転状態において電圧 等が所定の値を満足することを確認	令和元年 10 月 16 日	良
直流電源系作動検査	蓄電池の充電器を停止し、蓄電池が放電 状態へ切替わることを確認	令和元年 9 月 30 日 令和元年 10 月 1 日	良

検査項目	検査内容の概要	検査実施日	検査結果
蒸気タービン開放検査	蒸気タービン本体及び附属設備の主要な 部品に機能・性能に影響を及ぼすおそれ のある亀裂、変形、摩耗等がないこと、 ボルト締付量及びロータアライメントが 計画値内であること、配管の肉厚が基準 値以上であること、復水器等の伝熱管の 施栓本数が許容本数を超えていないこと を目視検査等により確認	令和元年 10 月 30 日 令和元年 10 月 31 日	良
蒸気タービン性能検査	スラスト軸受摩耗トリップ他の保安装置の動作値が設定値どおりであること、関連する主要弁の閉止状態に異常がないこと、警報及び表示灯が作動することを確認	令和元年 10 月 31 日	良
総合負荷性能検査	定格熱出力一定運転状態で、所定の項目 の測定値が制限値を満足し、かつ目標値 に比べて異常がなく、安定していること を確認	令和元年 11 月 19 日 令和元年 11 月 20 日	良